■菊地酉治　　プロテスタント。阿片禁止の運動家。
きくちゆうじ
秩父事件・・1884＝　　この頃，生まれる。

帝国憲法発布1889＝ 5歳：

郡司千島探検1893**＝ 9歳：**
日清戦争始・1894＝10歳：

白馬会・・・1896＝12歳：故郷を離れ，薬種商に奉公。

教科書疑獄・1902**＝18歳：**

日露戦争始・1904＝20歳：中国に渡り，揚子江方面に行って，2年間，薬の行商をした後，
日露戦争終・1905＝21歳：
満鉄発足・・1906＝22歳：湖北省沙市で薬店を開く。

商売は順調であったが，やがて**_阿片中毒になるが，**

この間**_プロテスタントの信者となって，中毒から離脱。**
大逆事件判決1911**＝27歳：**
明治天皇没・1912＝28歳：

21ヶ条要求・1915＝31歳：21ヶ条要求に端を発する排日運動が強まり，

沙市を撤退して，上海に移動。

ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝35歳：反日の<五・四運動>が勃発・拡大する中，上海で書店を開いていた同じプロテスタントの内山完造と消費組合を設立，内山からは，のちに"変わった人"として記される。
大暴落・・・1920**＝36歳：**漢方薬の一種何首烏を売り出し，販売用のパンフレット「何首烏解説」を作成するが，
原敬首相暗殺1921＝37歳：商売は上手く行かなかったらしく，家族とともに，日本に引揚げ，東京で薬店を開いて，細々と暮らす。**_日本基督教白金教会長老としてプロテスタントの信仰を続けながら，在日中国人と付き合ううち，阿片中毒者が多くいたことから，阿片禁止を自らの使命と考えるようになり，少数の仲間に助けられて，**
関東大震災・1923＝39歳：アメリカを中心に世界的な阿片禁止の潮流が起こるなか，**_阿片問題の研究に没頭し始め，**
護憲三派圧勝1924＝40歳：ジュネーブでの第2回国際阿片会議で大きな役割を果たしたアメリカの影響のもと，阿片問題を扱い始めた
治安維持法・1925＝41歳：***日本基督連盟の国際部に招かれて阿片問題を報告，聴く人々を圧倒し，専門家としての地位が確立。連盟の機関誌に講演の要旨「阿片問題に就いて」掲載。その後も，日本のモルヒネ類の密輸を強く非難，**
共産党事件・1928＝44歳：日本基督連盟での講演に感激した社会事業専門家生江孝之と知合い，またガントレット恒が主任を務める社会部の委員会で菊地の**_阿片問題に関する著作を出版する計画が立てられるも，**
世界恐慌・・1929**＝45歳：**外務省の後援で生江と中国を訪問，阿片中毒救済のための病院計画の実現をめざすも叶わなかったが，禁煙記念日の式典に招待され，中国語で演説して感銘を与える。出版計画は，政府政策批判に対する世間からの非難を恐れたのか，***突然中止となって落胆，雑誌{支那}におそらくその原稿をもとにした「支那阿片問題の一考察」という長い論文を投稿，この間，阿片問題に関する国際条約を遵守しようとするグループとの関係が構築され，精力的に様々な出版物に投稿し，国際連盟協会で話すなど，阿片禁止を訴えて，日本阿片害毒防止会の設立までこぎつけるが，軍部や公権力の名指し批判は避け，結局現実論の前に敗退して行く。**
満州事変・・1931＝47歳：
五一五事件・1932＝48歳：***中国側の阿片禁止運動の機関誌{拒毒月刊}に，日本阿片害毒防止会のトップメンバーの一人として写真が掲げられるが，まもなく，貧困と失意のうちに，自殺したらしい。**

倉橋正直「阿片帝国日本」，